

# 10代婦人の妊娠に関する研究

小山市民病院長 石 浜 淳 美

12歳から19歳までの妊婦829例について、アンケート調査を行い、全体的な集計は前回報告した。今回は調査項目間のクロス集計の一部について報告する。

## 1. 学歴と地域との関係

人口10万以上を都市部、それ以下を郡部として集計すると、10代妊娠の発生場所としては、全体的に都市部に高く、郡部に低い。すなわち全体の67.1%は都市部で発生し、32.3%が郡部で発生している。

これを本人の学歴別にみると、今回の資料では、小学生は都市部だけであった。中学生、中卒、高校、高卒、大学生では、ほとんど差がみられない。僅かではあるが、高校生は郡部に多く、高卒では都市部に多く認められているが、数学的検討は加えていない。

## 2. 相手の年齢、職業との関係

妊娠した女性の年齢と、妊娠させた相手の年齢との関係を見ると、14歳から68歳までの男性に広く分布している。しかし全体的に眺めると、女性の年齢が低い方では、一般に相手の年齢が高い傾向を示し、18～19歳ではほぼ同じ年代間で起っているが、女性の年齢が16歳以下になると、相手の年齢との差が著明に高くなる傾向を示している。

妊婦の年齢と、妊娠させた相手の年齢の平均値で示すと、〔図-1〕に示した通りである。すなわち、12歳の少女を妊娠させた相手は、36歳の男一人であったが、13歳の女性では、60歳と30歳の男性の2例で、男性の平均値は45歳であった。これに対し、女性の年齢が17歳を過ぎると、相手の男性の平均年齢は、20歳前後に低下してくる。

## 3. 妊娠発生の場所

年齢別、地域別に妊娠発生場所をみると、全体的に都市部に多く、郡部に少ない。年齢別にみると、16歳以上は都市部に多く、16歳未満のものはむしろ郡部に多くみられている。ただし12歳、13歳はいずれも全部（3例）が都市部で発生していた。

## 4. 親族の同居の有無と初交年齢との関係

全般的にみると、10代の妊娠は親族と同居していないものに高率に認められている。特に初交年齢をみると、親族の誰かと同居しているものでは、初交年齢が15歳以上であるのに対し、同居していない場

合には、10歳から初交が行われていた。（図-2）

## 5. 妊娠を知ったときの親の態度

娘が妊娠と判ったときの親の態度としては、都市部も郡部もほぼ同様の態度を示している。

すなわち、70%はやむをえず容認の態度を示し、30%が絶対認めないという態度を示している。

## 6. 性教育に対する感心度

性教育を受けたかかったというものは、都市も郡部も共に30%で、どうでもよいといっているのが、10～20%であった。しかし無回答が50%もあるので、この成績からは判断できない。

## 7. 学歴と性教育

性教育を受けたか否かについては、全体の54.8%はなんらかの性教育を受けたと答えており45.2%は受けたことがないと答えている。

しかしこれを学年別にみると、低学年では性教育を受けていないという率が高く、学年が進むに従い、性教育を受けたものの率が高くなる傾向を示している。その境界は高校にあることを示している。したがってわが国では、高校以前の性教育は余り行われていないことを示している。

## 8. 居住地域と性教育の関係

性教育と地域との関係では、全般的に都市程性教育を受けた率が高くなっている。大体人口10万を境にして、性教育を受けた率と受けない率がクロスしていることが判る。

## 9. 性教育を受けた場所

性教育を受けた場所は、都市部も郡部も、学校で受けている率が圧倒的に高い。学校と家庭を比較すると、家庭で性教育を行っているのは都市部が郡部より高い傾向を示し、学校で行っているのは郡部に高い傾向を示している。

## 10. 地域別避妊法、学歴別避妊法

全体的にみると、避妊の実行率は都市部に高く、郡部に低い傾向を示した。方法別にみると、コンドームは都市部、郡部共に高い率を示し、ピルは都市に高く、郡部では殆んど実行されていない。なお妊娠中絶は、都市部と郡部を比較すると、郡部の方が高い率を示している。

学歴別に方法をみると、学歴に関係がなく、コン

ドーム以外の方法は、全体的に5%以下であった。

11. 地域別、学歴別初診日の問題

10代妊婦の初診日を地域別にみると、妊娠初期、(14週以内)に受診しているものは、都市部で70%、郡部では30%以下であった。それに反し、郡部では中期(28週)後期(42週)に初診を受ける率が高い傾向を示した。学歴と初診日の関係では、教育程度の高いもの程、初期に受診する率が高いことを示している。

年齢別に初診日をみると、[図-3]に示した通りで、14歳以下の妊婦は、初期に受診したものは1人もいなかった。それに反し、16歳以後では、年齢の進むに従って、初期の受診率が高くなり、中期、

後期の初診率が低下の傾向を示した。16歳以後では、妊娠後期になって初診を受けたものは10%以下である。

む す び

10代妊婦の社会婦人科的バックグラウンドについて、その一部の成績について報告した。結論的に云うと、常識的結果が示されたが、性教育のあり方、方法、開始時期などについて参考になる点も含まれていると考えられる。また妊婦指導、母子保健の面からも、少なからぬ示唆をえたものと思われ、今後更に他の項目について集計すると共に、有意性の検討を行って結論を出したい。

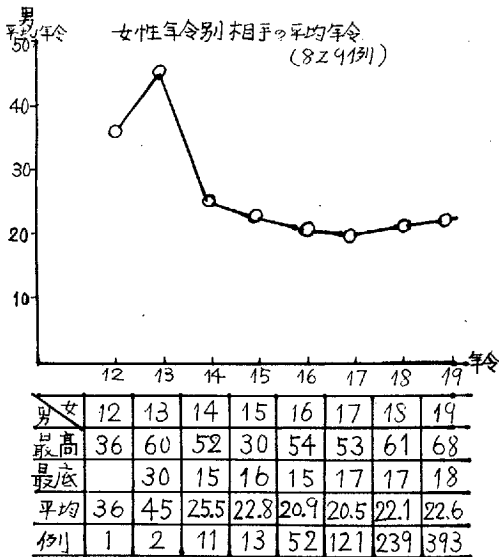


図-1 相手の年齢(平均)

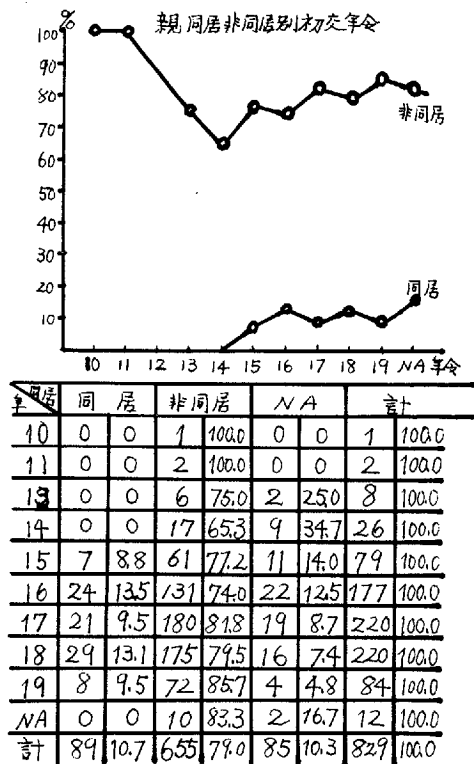
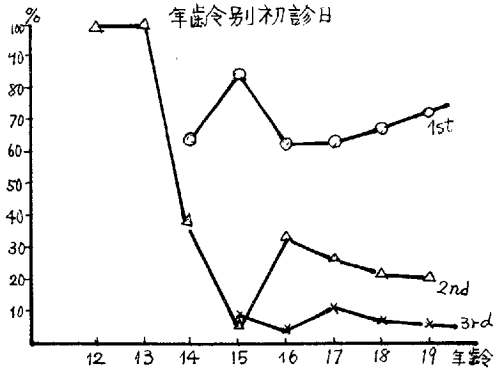


図-2 親同居の有無と初交年齢



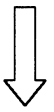
年齢	1st		2nd		3rd		NA	T	
	数	%	数	%	数	%			
12	0	0	1	100.0	0	0	0	1	100.0
13	0	0	2	100.0	0	0	0	2	100.0
14	7	63.6	4	36.4	0	0	0	11	100.0
15	11	84.6	1	7.7	1	7.7	0	13	100.0
16	32	61.5	18	34.6	2	3.9	0	52	100.0
17	75	62.0	31	25.6	13	10.7	2	121	100.0
18	159	67.4	55	23.3	17	7.2	5	236	100.0
19	281	71.5	82	20.7	25	6.4	5	393	100.0
T	565	69.7	194	23.4	58	6.9	12	829	100.0

1st (14w) 2nd (28w)

図-3 年齢別初診日



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



むすび

10 代妊婦の社会婦人科的バックグラウンドについて、その一部の成績について報告した。結論的に云うと、常識的結果が示されたが、性教育のあり方、方法、開始時期などについて参考になる点も含まれていると考えられる。また妊婦指導、母子保健の面からも、少なからぬ示唆をえたものと思われ、今後更に他の項目について集計すると共に、有意性の検討を行って結論を出したい。